

## 平成23年度第3回奈良市立中学校給食導入検討委員会会議録

- 開催日時、 平成23年6月29日（水） 午後6時00分～午後8時30分
- 開催場所、 奈良市役所 中央棟 第3会議室
- 出席者、 【委員】  
菊崎会長、石川副会長、松山委員、宮木委員、今中委員  
(5名全員出席)  
【事務局】  
中室教育長、北学校教育課長、山口保健給食課長、  
山本保健給食課長補佐、今田給食係長、吉川主任、伊藤主務
- 開催形態、 公開（傍聴人3人）
- 会議事項、
  - ・ 会長あいさつ
  - ・ 第2回会議（現地視察）の感想
  - ・ 給食実施方式の比較
    - ア、中学校給食導入にあたっての問題点と関連法令
    - イ、各給食実施方式のメリット・デメリット
    - ウ、30年後までの各給食実施方式別経費推移予測
    - エ、奈良市の財政状況
    - オ、各市が採用している給食方式の経緯
  - ・ その他
- 会議資料、
  - 資料1：中学校給食導入にあたっての問題点と関連法令
  - 資料2：各給食実施方式のメリット・デメリット
  - 資料3：自校方式を直営調理で運営した場合の予測
  - 資料4：自校方式を調理業務委託で運営した場合の予測
  - 資料5-1：公設公営によるセンター方式の予測
  - 資料5-2：公設民営によるセンター方式の予測
  - 資料6：PFI方式によるセンター方式の予測
  - 資料7-1：公設公営によるセンター方式で運営した場合の予測
  - 資料7-2：公設民営によるセンター方式で運営した場合の予測
  - 資料8：親子方式による予測
  - 資料9：建設費等の根拠

- 資料 10：親子方式で運営した場合の予測
- 資料 11：デリバリー方式による予測
- 資料 12：給食にかかる経費
- 資料 13：給食にかかる今後の経費推移予測
- 資料 14：奈良市の財政状況
- 資料 15：各市が採用している給食方式の経緯

○ 議事の要旨、

\*会長あいさつ、及び現地視察の感想

本日は、お暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。前回は現地視察ということで、今中委員にはお世話をおかけいたしました。

都祁中学校で給食の試食や懇談をしていただき、その後、飛鳥小学校でドライ方式の給食施設を見学していただいたわけですが、いろいろな感想をお持ちだと思いますので、それぞれ述べていただければと思います。

当日ご参加いただけなかった石川委員と宮木委員には別途視察いただいておりますのでよろしくお願いします。

それでは石川委員からお願いします。

石川委員：私は6月9日に親子方式の富雄第三小中学校と生駒市の給食センターを見せていただきました。富雄第三では実際作っているところや配膳の様子を見せていただいた後、試食もさせていただきました。作り手の顔が見えるのは、センター方式のように作ったものを運んで届けるだけというのよりは良いことだと思いました。

センター方式となると言葉が不適切かもしれませんが、「仕出し屋」的になってしまっただけに作り手が見えないだけに文句など言われやすい状況にあるのではないかと、メリット・デメリットはあると思いますが、そういうことも入れて検討していく必要があると感じました。

松山委員：都祁中学校にはランチルームがあるので、準備に時間がかかるのはどうかとは思いますが、食事をする環境はいいなと思いました。給食の内容は生徒の表情及び会話から、特に問題はないと思いました。また給食があるのは、生徒・父兄にとっては良いと私は感じましたが、先生の中には食育は家庭でするものではないかと疑問を持っておられる方もあるようでした。給食センターもを見せていただきましたが、学校で作っているわけではないけれども衛生的であると感じました。その後飛鳥小学校の給食室へ行きましたが、こちらは衛生面では過度ではないかと感じるほど整備されていました。しかし、年間の稼働日数からみると、コスト面で高いかなと感じました。

宮木委員：私は6月22日に富雄第三小中学校へ行ってまいりました。給食室へ

の声の掛け合いなど、調理員さんとのコミュニケーションがあっただけいいなと感じました。食育という観点から見ますと、食育に対する意識が先生によって違いがあるということが見え隠れしていました。給食の量的なものも心配していましたが、特に問題ないようでした。

今中委員：先日は遠いところまでありがとうございました。毎日の様子をそのまま見ていただきました。都祁中の場合のごく当たり前に給食がずっと続いてきたというのがありますので、特に中学校給食は意識していませんでした。

食育や生徒指導面、あるいは保健指導を進める上で、給食は教師にとって重荷となっている部分もあるということも感じていただいたと思います。学校給食導入を進めていく上で、いろいろな問題を克服していかななくてはならないということもご理解いただけたと思います。

菊崎会長：私もほとんど松山委員と一緒の感想です。給食時間が短いなど感じました。ランチルームでは1年から3年までが力を合わせて準備している様子が見られましたので、給食以外でもいい面があるなど感じました。飛鳥小学校の方は衛生管理の面でも本当にりっぱな施設でした。コスト面など順位をつけて、検討していかなければと思いました。

松山委員：飛鳥小学校はきちんと清潔にされていますが、あそこまでする必要はあるんですか。

事務局（山口）：学校給食衛生管理基準に基づいて整備しております。今後、奈良市で新しく作るのであれば、同等のドライ方式の施設になると思います。

松山委員：ですから、あそこまで設備を整えて、きちんとしなければいけないのですか。町なかのレストランや、業者ではあそこまでやっていないのでは。

菊崎会長：学校給食衛生管理基準に沿ってということになっていますので、町のレストランと同じというわけにはいかないですね。

宮木委員：町のレストランでも、保健所からきちんと営業許可証を取っていますが、確かに給食室ほど厳しくはないかもしれません。

菊崎会長：それでは資料の順番に、事務局から説明していただきたいと思います。

事務局（山口）：資料1：中学校給食導入にあたっての問題点と関連法令  
について説明

菊崎会長：いろいろな問題があるのがよくわかりました。何か質問はありますか。

松山委員：トラックの出入りというのはそんなに問題になるのですか。

事務局（山口）：おそらく50台くらいのトラックの出入りがあると思われるので、周辺住民の反対があることが予想されます。

宮木委員：センターは準工業地域になりますか。

事務局（山口）：センターは工場ということですからそうなります。

石川委員：先ほど親子方式は難しいというお話でしたが、では自校方式と親子方式だったら、どちらの方がハードルは高いですか。

事務局（山口）：経費の問題を除けば、子どもに安全な進入経路の確保くらいの問題のみとなりますので自校方式の方が導入しやすいです。

松山委員：自校方式が出来るということはそういう給食室などを作る敷地があるということですか。

事務局（山口）：敷地のないところは、空き教室など既存の建物を利用するなど考えております。

次に

事務局（山口）：資料2：各給食実施方式のメリット・デメリット

について説明

宮木委員：民間でやっているPFIはないのですか。

事務局（山口）：PFIは関東では、広まっています。調べてみますとだいたい15年のローンを組んでやっているようなものが多いようです。トータルで見っていくと相当高くつくと思われまます。また後で説明します。

石川委員：この方式ごとの教師の負担というのはどうでしょうか。

事務局（山口）：教師の負担のみを考えると、デリバリー方式がいちばん少ないと思います。

今中委員：私は現在センター方式の中学校で、前任の小学校のときは自校方式でした。その前はデリバリー方式の中学校でした。小学校の低学年の給食指導はかなり大変ですが、中学校になりますと下積みが出来ていますのでそれほどでもないです。食育の面から考えると自校方式がいいのかなと思います。デリバリー方式は、食券販売・弁当の受け渡しに加えて、従来からのパン販売などもあり、先生方にお願ひ出来なくて管理職がおこなっている状態でしたので、煩雑にはなっていたと思います。

石川委員：親子方式で7校実施できるというお話がありましたが、それによって小学校の先生に負担をかけるのであれば難しいのではないですか。

事務局（山口）：調理員には負担はかかりますが、学校にはかからないと思います。

宮木委員：委託の会社は、数が増えれば逆に儲かりますよね。

事務局（山口）：委託校のところはそうなりますね。

石川委員：先生方に負担が大きくなるのであれば、私達も少し検討していかな

ければならないと思います。

宮木委員：お話を伺って、委託でセンター方式というのが早急さで行くと一番早  
いように感じたのですが。自校方式ですと出来る学校と出来ない学校がある  
ということは、一斉に出来ないと言うことですね。

事務局(山口)：導入の早さだけでいいますと、デリバリー方式が一番早いです。  
その次がセンター方式になりますが、中学校の受け側は現在11校のデリバ  
リー方式で設置している配膳室を利用できるかなと考えており、自校方式は  
コストはかかるが、順次にしていけるというメリットもあります。

次に

事務局(山口)：資料3：自校方式を直営調理で運営した場合の予測  
4：自校方式を調理業務委託で運営した場合の予測  
について説明

松山委員：給食を民間業者に委託するという事に何か問題点はあるのですか。

事務局(山口)：派遣法という問題がありまして、こちらから指示をする場合は現  
場ではなく、必ず本社の方へ連絡しなければならないというのがあります。

石川委員：もしきちんとした経費を計るのであれば、先まで計算して、ふたを開  
けてみれば思ったより維持費がかかってしまったということがないように精  
査しないとイケませんね。

今中委員：前任の小学校は自校方式で直営から委託へ変わったんですが、維持費  
に関しては、業者にご協力していただいた部分がたくさんありました。施設  
面の維持費というのは甘く見ない方がいいと思います。

次に

事務局(山口)：資料5-1：公設公営によるセンター方式の予測  
資料5-2：公設民営によるセンター方式の予測  
6：PFI方式によるセンター方式の予測  
7-1：公設公営によるセンター方式で運営した場合の予測  
7-2：公設民営によるセンター方式で運営した場合の予測  
について説明

松山委員：PFIというのはなぜこんなにコストがかかるのですか。

事務局(山口)：この経費は、建設費、運営費すべて込みの15年ローンのよう  
なものですので、大きな数字になっています。

石川委員：PFIのメリットは一括で支払わなくていいということですね。ネットは最初の契約が大変細かく複雑なところですかね。契約にいたるまでのコンサルタントにかかる経費もありますし、リスクも含めてのPFIなのでコストがかかるのは仕方がないと思います。

宮木委員：市に税金を納めている私たち市民にとっては、民間に膨大なお金を払ってするんだったら、市でやってほしいという思いになりますね。

次に

事務局（山口）：資料8：親子方式による予測

9：建設費等の根拠

10：親子方式で運営した場合の予測 について説明

松山委員：資料にあがっている7校以外で、親子方式ができない残りの中学校は他の方式でやるということですね。

事務局（山口）：そのとおりです。

松山委員：どのようにこの中学校7校・小学校10校の組み合わせを考えられたのですか。

事務局（山口）：基本的には同じ校区内で、調理に余力のある小学校を選定しました。いくら調理する余力があっても、遠い場所から運ぶのでは時間がかかってしまいますから。

次に

事務局（山口）：資料11：デリバリー方式による予測

12：給食にかかる経費

13：給食にかかる今後の経費推移予測 について説明

松山委員：自校方式で委託方式というのが、長期的なコスト面ではいいようですね。

宮木委員：PTAの立場として、保護者のみなさんは一日も早い中学校給食の実現を望まれています。ただ乗り越えなければならないのは安全・安心ということですので、経費の面もありますけれどもその点に留意していただきたいと思います。

石川委員：今、安全・安心とおっしゃいましたが、食中毒などのリスク分散を考えると、やはりセンター方式は厳しいかと思います。また、衛生面やコスト面からも検討していかなければならないですが、もう一つ、今回の震災発生を受けて、避難所・防災拠点としても考える必要があるのかと思います。

宮木委員：先日、私は被災された多賀城市に行ってまいりましたが、センター方

式より自校方式の方がいち早く温かい給食を提供することが出来ていたのも、やはり防災のことを考えると自校方式の方がいいのかなと実感しました。

松山委員：それと自校方式のいいところは、導入出来るところからとりかかれるということですね。センター方式だと、そこが完成しないと始まらない。

宮木委員：しかし、段階的に進めると学校によって導入時期にずれが生じますので、保護者としては早く全校に、という思いがありますね。

石川委員：市としては、初期投資が少ない方が動きやすいですよ。順次導入していけるのであれば自校方式が前に進んでいけるのではと思います。皆さんのお話を伺っている中で、やはり最終的には中学校全校に給食を導入すべきとの認識だと思っております。

次に

事務局（山口）：資料 14：奈良市の財政状況について

資料 15：各市が採用している給食方式の経緯 について説明

松山委員：奈良市の財政が厳しいのはわかりますが、これだけ全国的に中学校給食を実施されている以上、行財政改革などを進めて予算を捻出していきたいと思っております。

菊崎会長：それでは時間も無くなってしまったので、次回からどのような方法で、中学校給食方式の選定をしていけば良いかおぼていきたいと思います。そのときにはアンケートの調査結果が出されるということです。第4回の検討会の何か良い進め方がありましたらご提案をお願いします。またこんな資料があればいいなというものがあればありましたらお願いします。

松山委員：この検討委員会では、先ほどから説明のあった各方式で、どれが適しているかを審議するだけでいいのですか。

事務局（山口）：もちろん、これは委員の皆様にご決めていただくことですが、全市的な方式なのか、校別に適した方式を選んでいただくのか、選定した結果として、統一の方式となるのか、といったことも含めて検討いただければと思います。

石川委員：今までいろいろ聞かせていただいた中で、やはりその学校によっては親子式であったり、自校方式がベストであったりということになってくると思いますので、奈良市の地理的な面の資料もつけていただいた方がわかりやすいです。

事務局（山口）：次回は現場の担当者も交えて、スライドや学校配置図などもご用意して、ご説明させていただきたいと思っております。

松山委員：そうですね、やっぱり1校ずつ決めていく方法がいいかもしれないで

すね。資料として、この学校は自校方式は無理だとか、この学校は親子方式が可能だとか、事務局は大変でしょうがそういった資料を作っていただければと思います。

菊崎会長：ありがとうございました。それではこれで第3回中学校給食導入検討委員会を終了させていただきます。

事務局（山本）：今回の会議録の署名は、菊崎会長と松山委員となりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

奈良市立中学校給食導入検討委員会運営要領第10条第2項の規定により、ここに署名する。

平成 23 年 7 月 13 日

菊崎 泰枝

松山 浩幸